

日本哺乳類学会 2024 年度大会参加報告

平川 亮太 (ワイルドライフマネジメント事業部 関東支社)

令和5年度のニホンジカの捕獲数は72万頭に達した¹⁾。近年、捕獲されたシカという資源の有効活用について取り上げられることが増えており、その中で鹿の胎仔である鹿胎に関する研究発表が本大会で行われた²⁾。鹿胎は鹿茸とともに、主に中国や日本で昔から薬種として用いられてきた²³⁾。日本では少なくとも17世紀にはその利用が記録されている⁴⁾。江戸時代後期から明治時代初期にかけて、西洋医学が普及し始めたにもかかわらず、鹿胎には根強い需要があり、その価値は高かった⁴⁾。さらに、毛皮などの需要とも相まって、この時期はメスのジカ(以降、メスジカ)の捕獲数も非常に多かった。メスジカに対する高い捕獲圧は、オスのシカに対するそれと比べて個体数の減少がより顕著であることが分かっている⁵⁾。個体数の大幅な減少により、北海道では禁猟政策が、本州では1歳以下のシカの捕獲規制措置が取られた⁶⁾。その後、個体数の回復とともに段階的な規制緩和が行われ、メスジカの禁猟政策は昭和中期にようやく解禁された⁶⁾。メスジカに高い需要があった時期に選択的に捕獲するためのノウハウも存在していたが、この長期に及ぶ禁猟政策によってそれらの知識は失われてしまった²⁴⁾。また、この間に国内で西洋医学が発展し、薬種としての需要が減少したことが、今日の日本でメスジカの捕獲数が伸び悩む原因の一つだと考えられている⁴⁾。

シカが海水、ミネラルを含む土壌、海藻、塩性植物などを好んで摂取していることが、各種文献に記載されている⁷⁾。この習性を利用し、鉍塩や醤油、人尿などがシカを誘引するために利用されてきた⁷⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾。メスジカを選択的に捕獲するノウハウについては、早川孝太郎が1926年に出版した『猪、鹿、狸』に初めて記載が見られ、冬の終

わりから春先にかけて人の小便にシカが誘引され、さらにその多くが妊娠中のメスジカであった⁷⁾。小便がメスジカを誘引するという文献は他にも存在し、特に妊娠期から授乳期のメスジカはNaを多く摂取する傾向があると考えられている⁷⁾¹¹⁾。

鉍塩などミネラルを多く含む誘引物に関する研究はあるが、Naに焦点を当てたシカの誘引に関する研究は少ない。本大会ではこれに関する研究発表も行われた¹²⁾。水と塩水によるシカの誘引効果を性クラス別に検証し、さらにその季節変化を研究したもので、メスジカの誘引が確認された¹²⁾¹³⁾。特に、4月上旬から7月中旬にかけてメスジカの誘引効果が顕著であった。これは、植物中のNaとCaの含有量がシカの要求量に比べて少ないこと¹¹⁾¹⁴⁾や、シカの乳中のNa濃度が牛乳中のそれよりも高いことと関連している¹²⁾¹⁵⁾。ただし、この研究は地域が限られており、鉍塩を用いたシカの誘引性に関する研究では地域差が認められている⁹⁾。これは、地域によって自然に塩分を補給する場所が存在することや、土壌中のミネラル濃度が植物中のミネラル濃度に影響しているためだと考えられる。

メスジカを誘引するための方法が見つかるが、捕獲へと繋げ、効率的に個体群の縮小を図ることが求められている。これにより、各種被害の軽減はもちろん、殺処分される個体数を削減することができ、動物福祉上も重要である。

- 1) 環境省. 2024. ニホンジカ・イノシシ捕獲頭数速報値(令和5年度) 環境省, 東京, 112 pp. <https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs4/sokuhou.pdf> (2024年10月17日確認).
- 2) 安田雅俊・鈴木圭. 2024. 塩類を用いたシカの

- 捕獲と過去の鹿胎の利用. 日本哺乳類学会
2024 年度神戸大会プログラム・講演要旨集
79.
- 3) 姜兆文. 2016. ニホンジカの管理および漢方薬としての伝統利用. 日本鹿研究 7: 26-32.
 - 4) 安田雅俊・堤将太. 2022. 日本における薬種としての鹿胎(ニホンジカの胎仔)の利用. 哺乳類科学 62: 161-187.
 - 5) Ueno, M. Kaji, K. Saitoh, T. 2010 Culling versus density effects in management of a deer population. J Wildl Manag 74: 1472-1483.
 - 6) 環境省. 2021. 第二種特定鳥獣管理計画作成のためのガイドライン(ニホンジカ編)改定版. 環境省, 東京, 112 pp. <https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-2e/nihonjika.pdf> (2024年10月17日確認).
 - 7) 安田雅俊・鈴木圭. 2022. シカと塩類. 森林野生動物研究会誌 47: 35-39.
 - 8) 坂庭浩之. 2022. ニホンジカにおける鉍塩の誘引効果の地域差について. 群馬県林業試験場業務報告 26: 1-3.
 - 9) 池田敬. 2023. ニホンジカにおける鉍塩の誘引効果の検証. Wildlife and Human Society 11: 79-85.
 - 10) 池田敬. 2016. ニホンジカの効率的な捕獲に向けた醤油の選択効果の検証. 哺乳類科学 56: 47-52.
 - 11) Mori, T., Iwagami, S., Yamagawa, H., and Suzuki, K. K. 2023. Do Feed Plants Provide Sufficient Sodium, Calcium and Magnesium to Sika Deer in Japan? An Analysis Using Global Plant Trait Data. Animals 13: 1-10.
 - 12) 鈴木圭・森大喜・山川博美. 2024. 塩水のメスジカ誘引効果の季節変化. 日本哺乳類学会 2024 年度神戸大会プログラム・講演要旨集 80.
 - 13) Suzuki, K. K., Mori, T., and Yamagawa, H. 2023. Sex differences in a large herbivore's salt water drinking behaviour: a method for applying a female-biased attractant. Mammal Research 68: 653-658.
 - 14) 安田雅俊・八代田千鶴. 2020. 森林内に人工的に塩場を創出する試み. 九州森林研究 73: 121-122.
 - 15) Berruga, M. I., de la Vara, J. Á., Licón, C. C., Garzón, A. I., García, A. J., Carmona, M., Chonco, L., and Molina, A. 2021. Physicochemical, Microbiological and Technological Properties of Red Deer (Cervus elaphus) Milk during Lactation. Animals 11: 1-14.

表紙の絵

最近ツキノワグマがかわいく感じるようになってまいりました。
イラスト作成を通して、野生動物をより深く知ることができるよう
邁進してまいります。

松山 みのり (管理本部 情報管理室)